

かいづか文化財だより



TEMPUS

テンプス

2000年 9号



貝塚市初！平安時代後期の瓦窯を発見！

- 加治・神前・畠中遺跡の発掘調査 -



加治・神前・畠中遺跡は本市を縦断して流れる近木川（こぎがわ）右岸の段丘に位置し、東西1.5km、南北1.3kmの範囲の弥生時代から中世にかけての遺跡です。

今回の調査は、民間開発に先だって貝塚市畠中2-10-1他地内、調査面積約3,300m²、調査期間平成12年7月10日～9月8日で実施しました。

調査の結果、瓦窯10基、溝、柱穴等多数の遺構を発見し、遺構から出土した土器の他に遺物コンテナ300箱にもおよぶ多数の瓦が出土しました。

検出した遺構で注目されるのが瓦窯です。貝塚市内では初めての発見で、2種類10基の瓦窯を発見しました。

窯1～窯3は近木川に面する段丘端の斜面部分で検出した瓦窯で「ロストル式平窯」と呼ばれるタイプの瓦窯です。規模は3基ともほぼ同じで全長4.2m～4.7m、幅約1.7m、天井のほとんどが失われていますが、焚口（たきぐち）

燃烧室（ねんしょうしつ）焼成室（しょうせいしつ）が良好に残っています。今回検出した窯の特徴は斜面を掘り込んだ半地下式ということと瓦を焼く焼成室下のロストル部分の床が燃烧室側に傾斜してつくられていることです。瓦窯の時期は、瓦窯内から出土している軒丸瓦などから12世紀後半と考えられます。

窯1～窯3が斜面部につくられた瓦窯なのに対して、窯201～窯207は平坦部分につくら



窯1

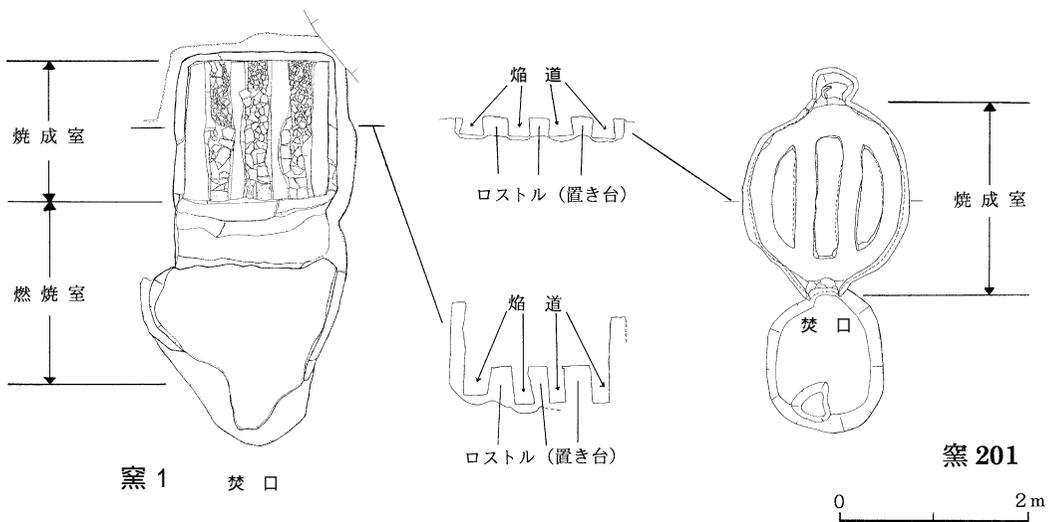


れた瓦窯です。構造は同じ「ロストル式平窯」と呼ばれるタイプですが、焼成室の形がほぼ円形で直径が1.4m～1.7mの大きさのものです。全国的にも類例の少ない珍しい構造の瓦窯です。置き台は、2本のものと3本のものがあり、1度に焼く瓦の量も少ない小規模の窯といえます。窯の時期ですが、出土遺物から12世紀末と推定されます。

他の主な遺構としては溝、柱穴群をあげるこ

とができます。溝は南東から北西方向にほぼ平行して流れる3条を検出しました。溝内からは、奈良時代から平安時代にかけての土器が出土しています。

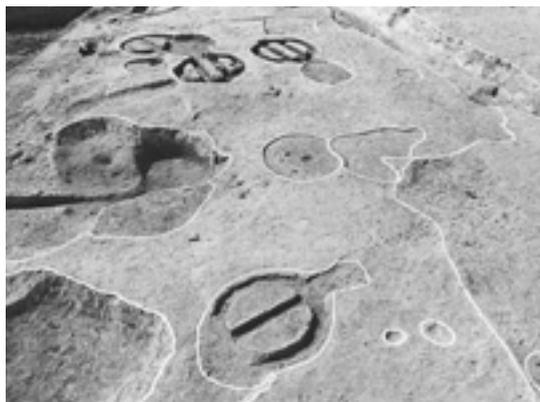
柱穴群は調査区北側で検出しました。掘立柱建物の柱穴と考えられます。後世の耕作によって削られており、建物を復元できませんでした。出土遺物から、平安時代の柱穴と中世の柱穴の2時期に分けられます。





瓦窯で焼かれた瓦は どこで使われていた？

今回の調査では、大量の瓦が出土しており、平安時代後期の瓦が大半を占めます。当時、瓦を使用する建物は寺院であり、大量の瓦は寺院の屋根に葺かれていたと考えられます。調査地周辺には「コギ堂」という字名が残っています。これは古文書に記述のある「近義堂(こぎどう)」という寺院のことと考えられます。発掘調査で「近義堂」と考えられる建物の遺構は発見されていません。しかし、当時の瓦窯は寺院の建立や修理の時につくられることが多いことから「近義堂」が調査地近くに存在したことが確実となりました。



窯 201 ~ 窯 207



窯 201・窯 202 (手前)



「近義堂」とは？

藤原経房の日記「吉記(きつき)」、承安4(1174)年9月23日の条に「古木堂」、藤原定家の日記「明月記(めいげつき)」、建仁元(1201)年10月7日の条に後鳥羽上皇が昼食をとった「コ木ノニ王堂」が記録されており、皇族や貴族等の熊野詣の宿泊・休憩所として利用された寺と考えられています。字名は残っていますが発掘調査では発見されていない、まぼろしの寺です。



窯 2



窯 2 瓦出土状況



55 年前、貝塚にも空襲があった

- 市民グループが被災状況を記録、『貝塚の空襲記録』冊子ができました。 -

昭和 20 年（1945）7 月、太平洋戦争の末期に、東、海塚、近木、中などの地域がアメリカ軍の空襲を受け、多くの犠牲者と被害が出ましたが、これまで記録調査の対象とされたことはありませんでした。

貝塚市内では、平成 8 年に市民グループ「東の歴史と生活を掘り起こす会」によって、市内の東地区・海塚地区を中心に戦災記録の取り組みが行われ、成果として『戦争と東のひとつ』が刊行されました。本格的な戦災記録作業としては市内で初めての取り組みで、聞き取り調査によって両地区の被害状況が記録されていて評価できるものです。

この「東の歴史と生活を掘り起こす会」の取り組みに触発されて、北小学校（当時は国民学校）に在学していた同窓生により平成 9 年に「貝塚の空襲を記録する会」が発足、旧貝塚の市街地（寺内町地域）の戦災記録についての活動が始められました。

約 3 年間にわたる聞き取り調査や各種資料の分析といった活動の末、来襲や被害の状況について、おおよその全体像が明かにされました。



南上町の消防訓練風景 松谷美智子さん提供



当時の貝塚の町

来襲したのはサイパン島から堺市を目標とした B29 編隊のうちの 1 機、来襲時刻は 7 月 10 日午前 2 時頃、使用された焼夷弾は 2 種類、死傷者 11 名、被災家屋 82 戸…。

特に、これまであいまいだった空襲時刻や飛来した米軍機の数等について一定の結論を出しており、限られた資料・情報の中で非常に緻密な研究成果と言えます。

地元の間人関係をフルに活用した「聞き取り調査」は、体験者の年齢から今回が行い得る最後の機会であろうと思われ、量質ともに評価される貴重なデータとなりました。「聞き取り調査」をもとに作成された「戦災地図」は、昭和 20 年当時の貝塚のまちを記録している地域資料としても貴重なものと言えましょう。

「貝塚の空襲を記録する会」の活動は、市民自らが悲惨な戦争体験を振り返りつつ、それを記録していこうとする活動として評価されるものです。活動の成果は『貝塚の空襲記録』として冊子にまとめられ、貝塚市教育委員会より刊行いたしました。希望者には配布いたしますので、お申し出ください。



市指定文化財に 「福原家文書」を一括指定

- 今年 12 月 4 日より「市指定文化財展」を開催 -

貝塚市教育委員会では、今年 4 月 11 日付けで、貝塚市文化財保護条例による貝塚市の文化財を指定しました。今回は、古文書から福原家文書を指定しました。

福原家は、江戸時代を通じて福田村(現貝塚市福田)の庄屋をつとめ、泉州南部を支配していた岸和田藩内の庄屋としても屈指であり、麻生郷をはじめとする周辺地域においても活躍しました。古文書には福田村に関するものや、隣村嶋村(現貝塚市東)に関するものなどが多く、当時の人々の様子がいきいきとした形で伝わってきます。

これまで、一般的に文化財として指定される古文書は、有名な武将(例えば秀吉や家康)の書状など一点ずつのものがほとんどでした。今回 21,285 点に上るかたまりで指定されるのは珍しいことです。なぜそのような指定をおこなったかと言いますと、江戸時代から明治の初め頃までの農村のようすを解明できる貴重な地域資料であると判断したからです。

この福原家文書の整理調査は平成元年より着手し、平成 6 年 3 月には目録を刊行しました。現在、貝塚市教育委員会が寄託を受け、郷土資料室において保管しています。平成 6 年 3 月からは学術研究の促進を目指し、公開をおこなっています。その結果、多くの研究者の利用があり、様々な研究成果が明らかになっています。また、「東の歴史と生活を掘りおこす会」の学習グループが古文書の解読を通して、江戸時代から現代に至る地域の歴史をまとめる活動もおこなわれています。

なお、「福原家文書」をご紹介する「市指定文化財展」を 12 月 4 日(月)より平成 13 年 2 月 14 日(水)まで開催いたします。会場は貝塚市民図書館 2 階郷土資料展示室です。みなさまのご来場をお待ちいたしております。



調査風景



整理された古文書



「古文書等の利用に関する要綱」 の制定と公開活用

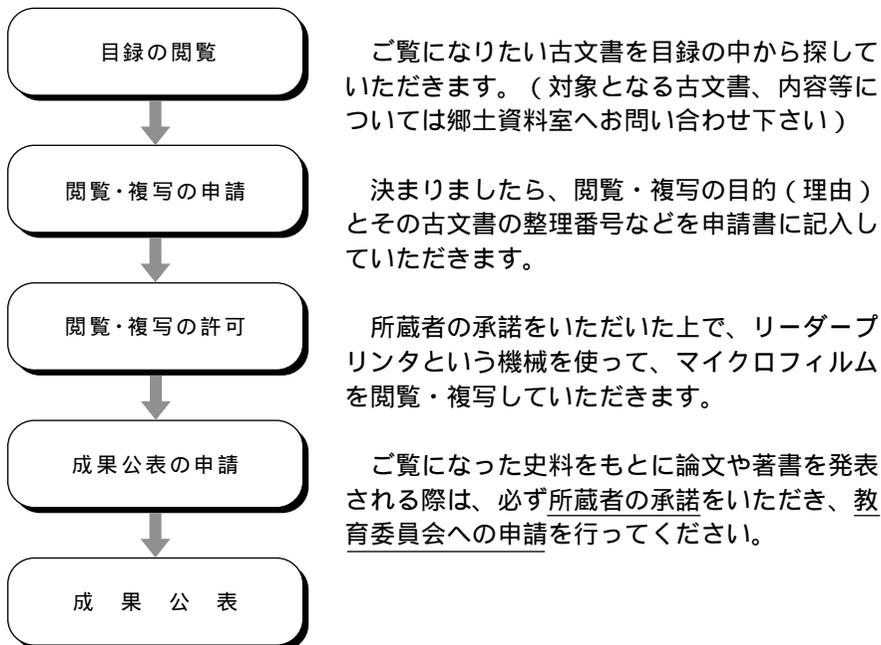
郷土資料室では平成元年の開室以来貝塚市に関わる古文書の保存・整理を進めてきました。その成果として撮影した古文書の写真（マイクロフィルムなど）を、地域の歴史を考える上での貴重な資料として広く活用していただけるように新たに「古文書等の利用に関する要綱」を制定しました。

この制度によって新たな「貝塚の歴史」を描き出すきっかけになればと考えています。なお、閲覧は無料ですが、資料の複写には実費（1枚10円）をいただきます。今後も貝塚市に関する古文書の保存・整理を進め、地域の歴史の解明に力を注ぐとともに所蔵している写真資料については、古文書講座の教材として活用したいと考えています。みなさまのご理解・ご協力をお願いいたします。



マイクロフィルム閲覧・複写の状況

古文書のマイクロフィルム公開の流れ



ホームページ更新しました！！

<http://www.mydome.or.jp/kaizuka>

今年1月に立ち上げました社会教育課のホームページも、6月末、市役所全体の内容更新と共に大きく作り替えました。

写真を中心に使っていますので、インターネットに乗せたとき表示が早くなるよう、ページの構成はシンプルなものにしています。市内文化財の基本的な事を公表す

るという目標にはまだ達していませんが、今年中には今項目に掲げているものは完成させたいと思っています。皆さんも一度ページにアクセスしてみて、こんな事が知りたい、こんなデータがほしい等、どんどんご意見をお寄せください。電話でもメールでも結構です。



編集後記

今年の夏は大変暑く、発掘調査は乾燥したかたい土に悩まされました。今回紹介した加治・神前・畠中遺跡の調査で2年ぶりに現地説明会を実施(9月2日)しました。200名近い参加者があり、実際に見学してもらって質問や意見がもらえるこのような機会は私達にとってうれしく、また、大切なことと考えます。発掘調査に限らず文化財の「調査」は地味ですが、そ

の成果を蓄積するとともに普及啓発することの重要性を改めて感じました。テンプスの編集をしながらそんなことを考えました。

* * *



かいつか文化財だよりテンプス9号

平成12年10月31日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1

☎(0724) 23 2151

印刷 (株)中島弘文堂印刷所

テンプスとはラテン語で時を意味します